1 甲斐源氏のふるさと

南アルプス市

南アルプス市域では、古くから水との闘いが繰り広げられてきた。御勅使川扇状地（みだいがわせんじょうち）の中心部はかんばつ地帯であり、そもそも水田には不向きな場所であったが、平安時代になるとこのような土地にも開拓の手が入り、牛馬の飼育施設である「牧（まき）」を中心とした開発が進められた。一方、洪水地帯だった扇状地の末端部についても開発が進み、今も残る「条里制の土地割り」がなされるなど、新たな農業基盤が整備されていった。平安時代末から鎌倉時代に甲斐源氏加賀美遠光（かがみとおみつ）が市域に拠点を構えたのは、このような経済的基盤が整った土地だったからこそである。

9 北山城跡

富士川町春米にある城跡。秋山光朝が神田大学に任せた城との伝承がある。寛文年間(1648 ～ 73)の春米検地帳では、城山、陣台、大手など城に関する地名が見られる。

10 二本柳遺跡

中世の水田跡や戦国時代の寺域を区画する溝がみつかり、加賀美遠光の居館跡に建てられた法善寺の子院である福寿院跡を中心とした遺跡とされる。墓域からは木棺墓が発見され寺院に深く関係する人物が埋葬されていたと考えられる。

11 大師東丹保遺跡（だいしひがしたんぼ）

鎌倉時代のムラ跡。館や水田、水路の遺構の他、低湿地に位置しているため漆塗の椀などの木製品が良好な状態で多数発見された。当時の生活空間を物語る貴重な遺跡。